## 微分積分学A中間試験(3·4限)

2023 年 6 月 15 日 第 3 時限施行 担当 水野 将司

注意事項: ノート・辞書・参考書・教科書・コピー・電卓の使用を禁ず.

## 問題 1.

次の問いに答えなさい. 答えのみを書くこと.

(1) Archimedes の公理を述べなさい.

(4) 集合  $S \subset \mathbb{R}$  が上に有界であることの定義を述べなさい.

(2) Cantor の公理を述べなさい.

(5) 空でない集合  $S \subset \mathbb{R}$  に対して Weierstrass の定理を述べなさい. なお, 必要に応じて,  $S_U := \{M \in \mathbb{R} : M \ \text{は} \ S \ \text{の上界} \}$  を用いてよい.

(3) 数列  $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$  が  $a \in \mathbb{R}$  に収束する,すなわち  $a_n \to a \quad (n \to \infty)$  であることの定義を述べなさい.

(6)  $\alpha$  が集合  $S \subset \mathbb{R}$  の下限  $\alpha = \inf S$  であること の,  $\varepsilon$  論法を用いた定義を述べなさい.

(7)	数列 $\{a_n\}_{n=1}^\infty$ が (広義) 単調減少であること $\sigma$	)
	定義を述べなさい.	

(10) 有界な数列に対する Bolzano-Weierstrass の定理を述べなさい.

(8) 単調増加な数列の収束性に関する定理を述べなさい.

(11) 数列  $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$  が Cauchy 列であることの定義を述べなさい.

(9) 自然対数の底 e の定義を述べなさい.

(12) 実数の完備性に関する定理を述べなさい.

(13)  $a_n = \frac{1}{n^3} (1 \cdot 2 + 2 \cdot 3 + 3 \cdot 4 + \dots + n(n+1))$  で定められた数列  $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$  の極限値を求めな

この下は計算用紙として利用してよい.

(14)  $a_n = \frac{1}{1 \cdot 3} + \frac{1}{3 \cdot 5} + \frac{1}{5 \cdot 7} + \dots + \frac{1}{(2n-1)(2n+1)}$  で定められた数列  $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$  の極限値を求めなさい.

(15) 漸化式  $a_n = \sqrt{2 + a_{n-1}}$  (n = 1, 2, 3, ...), 初項  $a_0 = 5$  で定められた数列  $\{a_n\}_{n=0}^{\infty}$  は収束する. その極限値を求めなさい.

以下は計算用紙として利用してよい. 採点には一切利用しない.

$$\frac{2n+6}{3n+7} o \frac{2}{3} \quad (n \to \infty)$$
 となることを  $\varepsilon$ -N 論法で示したい

問題 2. 
$$\frac{2n+6}{3n+7} \to \frac{2}{3} \quad (n \to \infty) \ \text{となることを} \ \epsilon\text{-N} \ \text{論法で示したい}.$$

$$(1) \ \frac{2n+5}{3n+7} \to \frac{2}{3} \quad (n \to \infty) \ \text{O} \ \epsilon\text{-N} \ \text{論法を用いた定義を述べなさい}.$$

$$(2) \ \frac{2n+5}{3n+7} \to \frac{2}{3} \quad (n \to \infty) \ \text{F} \ \epsilon\text{-N} \ \text{論法を用いて示しなさい}.$$

(2) 
$$\frac{2n+5}{3n+7} \rightarrow \frac{2}{3}$$
  $(n \rightarrow \infty)$  を  $\varepsilon$ - $N$  論法を用いて示しなさい.

## 問題 3.

収束する数列  $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$ ,  $\{b_n\}_{n=1}^{\infty}$  に対して, $a:=\lim_{n\to\infty}a_n$ ,  $b:=\lim_{n\to\infty}b_n$  とおく.

(1)  $\lim_{n\to\infty}(a_n-b_n)=a-b$  となることの  $\varepsilon$ -N 論法による定義を述べなさい.

- (2)  $\lim_{n\to\infty} (a_n b_n) = a b$  となることを  $\varepsilon$ -N 論法を用いて示しなさい.

## 問題 4.

A := (6,15) とおく.  $\inf A = 6$  を示したい.

- (1)  $\inf A = 6$  の定義を述べなさい.
- (2)  $\inf A = 6$  を証明しなさい.

以下は計算用紙として利用してよい. 採点には一切利用しない.